

試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	普及
課題名：マコガレイ小型魚の混獲を防止する小型底びき網漁具の開発			
<p>[要約] 東京湾の小型底びき網ではマコガレイの小型魚が多く混獲され、資源管理上の課題となっている。そこで、漁獲物の逃避は1割以下に抑えつつマコガレイ小型魚の混獲を3～4割減少させることが出来る漁具を開発した。</p>			
<p>キーワード：東京湾，小型底びき網，漁具開発，マコガレイ，小型魚混獲防止</p>			
実施機関名	主 査 水産研究センター資源環境部環境・技術研究室 協力機関 (独)水産総合研究センター水産工学研究所 漁法研究室		
実施期間	2000年度～2004年度		

[目的及び背景]

マコガレイは東京湾内湾（浦安市～富津市）の小型底びき網漁業の主要な漁獲対象種である。しかし、最近の漁獲量は低位で推移しており、また多くのマコガレイ小型魚（全長15cm未満）が目合いの細かい小型底びき網の一種であるあなご網に混獲されることから、資源管理上の問題となっている。

そこで、マコガレイの小型魚の混獲を防止する漁具を開発した。

[成果内容]

- 1 通常にあなご網のコッドエンドに次の改良を行う（図1）。
 - マコガレイ小型魚を漁具から逃がすために、すの目15mmの“すのこ”を取り付ける。主たる漁獲対象種であるマアナゴはすの目を通過出来ず漁具に保持される。
 - マコガレイ小型魚がすのこに遭遇し易くするために、すのこの前に誘導網を取り付ける。
 - ミズクラゲやヒトデ等がすの目を塞がない様に、すのこ誘導網の前に目合い2～2.5寸の仕切網を取り付ける。
- 2 開発した漁具により、マアナゴの逃避率を平均1割以下に抑えつつ、マコガレイ小型魚を平均3～4割逃避させることが出来る（図2）。
- 3 開発した漁具による漁獲金額の損益は、漁獲物の逃避などからおよそ5%の損失と推定される。

[留意事項] 図1は開発した漁具の基本型であり、普及に当たっては基本型をベースとしたうえで個々の漁船が使い易いように細部を変えることになる。

[普及対象地域]

普及対象地域：東京湾内湾海域

普及対象者：小型底びき網のうちのあなご網着業者

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

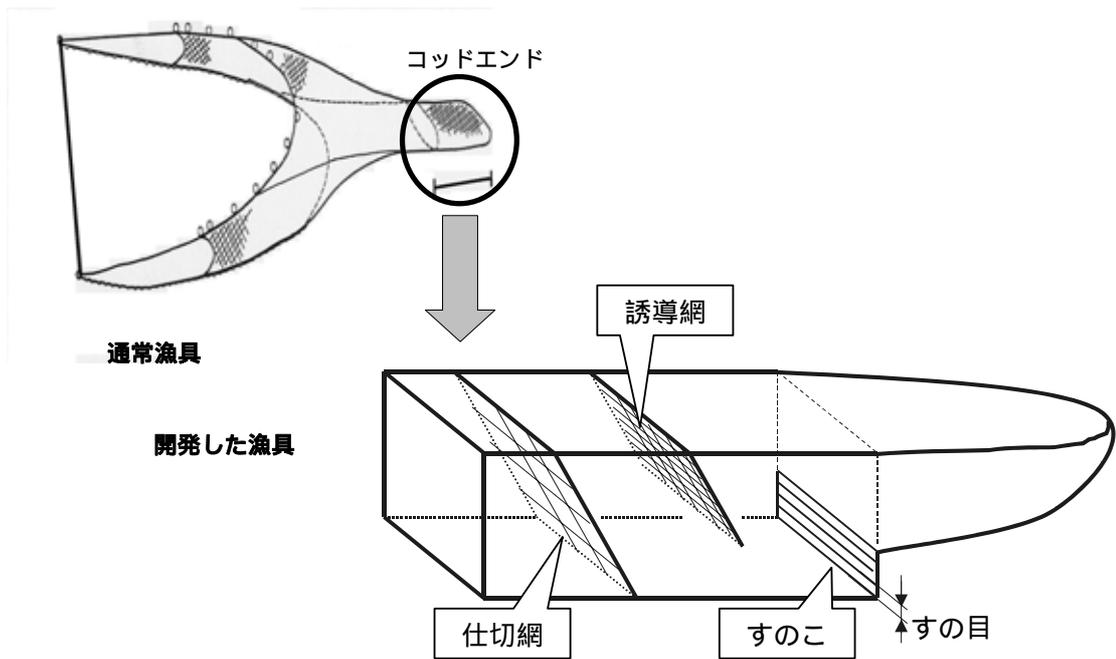


図1 開発した漁具の概要

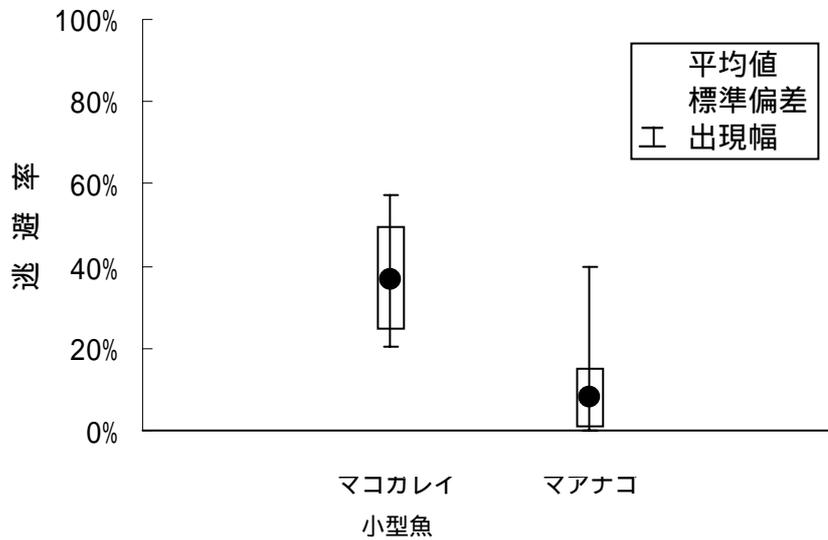


図2 マコガレイ小型魚とマアナゴの逃避率

[発表及び関連文献]

[その他]

内湾底びき網連絡協議会からの開発要望に基づき、研究課題「小型底びき網における選択性漁具の開発」で実施した。